千葉うみさとライン プロジェクト開始！

YACHIYO CITY

草木が成長する姿
市の中心を流れる新川
を表した八千代市の
シンボルマークです！

八千代市に『うみ』と『さと』をつなぐ役割を『内』と『外』をつなぐスタート地点に

広域公園から稲毛海岸公園まで水辺と賑わいが調和した親水空間が連続する新川。環境省『生物多様性保全上重要な里地里山』である「谷津島田」と「ほたるの里」から北側は豊かな緑地帯が広がり、２つの拠点「道の駅」と「広域公園」の間で『うみさと』が交わります。

point!

- 東葉高速線の２つの駅から水辺まで徒歩圏内
- 駅からシェアサイクルで周遊
- 「道の駅」と「広域公園」には大型駐車場完備

《プロジェクトでの取り組み》
『防災道の駅やちよ』『県立八千代市広域公園』の整備

「行ってみよう道の駅～農と遊びと防災と～」

- 千葉県唯一の防災道の駅
- 防災施設整備と賑わい創出
- 令和７年度にリニューアル工事着手予定

「水辺とスポーツ・情報文化とのふれあい」

- 萱田側（西側）
  ➡南側で造成工事中
  ➡プレーパークエリアを予定
- 村上側（東側）
  ➡かわまちづくり計画にて
  新たな水辺拠点を整備

議会質問簡単閲覧QRコード

スマホでチェック

議会の録画放送視聴できます》》

行政視察レポート

● 徳島市　かわまちづくり 現地視察

印旛沼流域かわまちづくり計画から令和５年には続編となる印旛沼放水路かわまちづくり計画の発表がされた。推進主体は千葉市・八千代市・佐倉市となる。徳島市かわまちづくりに対し選定理由として興味を持ったのは、地域資源を活かし民間と行政がどのような役割分担で事業が進んでいるのかを確認したかったからである。

水が生きているまち・徳島（ひょうたん島・水と緑のネットワーク構想）

徳島市は吉野川をはじめとする大小さまざまの川が横切り、徳島駅や市役所のある市中心部も新町川とその支流とによって囲まれた中州になっている（地元ではその形から「ひょうたん島」と呼ばれ ている）。

このような豊かな自然環境の中にある市の基本構想では、都市づくりの基本理念を「自立と共生の中に新しい豊かさを創造する市民参加型都市」 としており、特に川を活かした都市づくり が志向されている。行政、商店街振興組合、市民組織等の協働による川を活かしたまちづくり体制が進められている。

本市では船着き場等の整備を進めているが、河川の利用については厳しい制約が多く、なかなか利活用しやすい状況にはなっていない。徳島市役所職員によると「中村さん」という個人の方の力量によるものが大きいとのことに衝撃を受けた。船着き場の設置は行政主導になると安全性の考慮や中古品を使用できないことから莫大な予算がかかるが中村さんの川を利用するまちづくりの活動歴は３０年を超え徳島市、徳島県にも顔が利く。また地場産業からの信頼も厚く、ショッピングセンターのイオンからも船着き場の提供を受けている。また徳島県はLED発祥の地として橋にLEDを使用したアートを設置することで周遊船の乗船客、さらには観光客の誘致に成功しているといえる。また簡易的な船着き場の設置や周遊経路とLED等を利用した景観づくりは本市にとっても課題解決に向け実りのある視察となった。

● 室戸市　むろと廃校水族館 現地視察

むろと廃校水族館は、高知県室戸市室戸岬町にあった旧室戸市立椎名小学校（1874年創設。2001年閉校、2006年廃校）を改修して、2018年４月26日に開館した。運営管理は(NPO)「日本ウミガメ協議会」のメンバーが行っている。海水魚など約50種1000匹を飼育しており、全て地元漁師から譲り受けたもので、規模が小さいながらも希少性の高い魚類や大型の海洋生物などが搬入されることが多い。イセエビ、ナマコ、ウミガメ（アカウミガメとアオウミガメ）もおり、一部は来場者が触ることもできる。

今回の視察の目的は本市の持つ米本地区の廃校の利活用についてだ。点としての整備ではなく面としての利活用を推進していきたい。なかなか進まない利活用に大いに参考になる内容だった。

▼イカ墨を使用した書道